

令和3年予算決算委員会第3分科会会議録

1. 招集年月日 令和3年9月13日
2. 招集の場所 可児市役所5階第1委員会室
3. 開 会 令和3年9月13日 午前10時33分 分科会長宣告

4. 審査事項

協議事項

1. 予算決算委員会の提言、委員長報告に付すべき意見について

教育福祉所管

- ①〔病児保育の制度利用について〕

病児保育の制度利用利便性の向上に努められたい。

- ②〔小・中学校のICT環境整備について〕

小・中学校のICT環境整備においては、タブレット端末のフィルタリング整備を視野に入れるとともに、ICT支援員を増員するなど、学校・家庭においてオンラインによる授業が円滑に行えるような体制の整備に努められたい。

5. 出席委員（6名）

分科会長	川合敏己	副分科会長	中野喜一
分科会委員	林則夫	分科会委員	伊藤健二
分科会委員	山根一男	分科会委員	板津博之

6. 欠席委員 なし

7. その他出席した者

予算決算委員長	伊藤 壽	予算決算副委員長	勝野 正規
---------	------	----------	-------

8. 職務のため出席した者の職氏名

議会事務局長	宮崎 卓也	議会総務課長	下園 芳明
議会事務局 書 記	林 桂太郎	議会事務局 書 記	土屋 晃太郎

○分科会長（川合敏己君） それでは、時間になりましたので、予算決算委員会第3分科会を開会いたします。

9月7日、8日の予算決算委員会において、委員から発言がありました内容を基に、本日、分科会の皆様からの御意見をいただきまして、令和4年度当初予算編成に生かすよう、教育福祉委員会所管についての提言を行うよう取りまとめていきたいと思っております。

予算決算委員会においては、当分科会に出された意見は2つございました。

こちらの前のモニターに映っておりますように、病児保育の利用制度について、それから小・中学校のICT環境整備についてということで、取りあえずその予算決算委員会の場で副委員長がさっとまとめたものがここにありますので、これらの意見について、まず提言として取り上げるべきかどうか1つずつ整理して、後ほど取り上げたものを成文化していきたいと思っております。

また、そのほかに提言として取り上げたいというものがあれば、その後、御意見をいただきますので、よろしくお願いをいたします。

それでは、委員から出された意見を分科会として取り上げていくかについて御意見をいただきたいと思っております。

まず、1つ目です。

病児保育の制度利用について、病児保育の制度利用利便性の向上に努められたいということとなっておりますけれども、まずこの件についてちょっと御意見をいただきたいと思っております。取り上げるべきか取り上げないべきかということ。

○分科会委員（板津博之君） これ、質疑をされた山根委員がおられるので、再度確認というものあれなんですけど、私は少なくとも多分、山根委員の問題意識は、こういった制度がいまいち周知されていなくて、もっと執行部側に対して、その対象の方に広報なりその周知をすべきじゃないかというようなニュアンスだったかと思うんですけど、そういうことでよろしかったんですかね。

○分科会委員（山根一男君） そうですね。コロナ禍ということでもありますけれども、800万円という予算をつけながら、結果的に利用者が6人と。その前の年は五十何人いたみたいですが、やはりコロナ禍になる前から、とっても大事なことなんですけれども、利用者が少ないというのはちょっと頭にありまして、実は可児さくら保育園も実際に3人の枠を持っているわけなんですけれども、でも年に1人しか使わないということは、制度的に何か問題があるんじゃないかということです。

ただ、大きな枠組みで考えますと1点だけです。小さな問題ではないと思うんですけども。

ですので、委員会としてそれを提言するかどうかにつきましては、皆さんの御意見でいいかと思っておりますけれども、それは一つの事例の一つにはなると思いましたので、ちょっと発言させていただきました。

○分科会長（川合敏己君） 使われ方が少ないから、あえてちょっとこれを提言に出させていたいただいたというふうに理解すればよろしいですかね。

少ないということは、要するに周知されていないんじゃないかという、必要とされて……。

○分科会委員（山根一男君） だから、制度的にこの制度は必要だと思うんですけども、せっかくそういう制度があるのであれば、もう少し利用者がいるような形にならないのかなというのが素朴な疑問点からした発言です。

○分科会委員（板津博之君） 確かに大変大事な問題提起ということかなと思いますけれども、ちょっと今回、分科会で提言案とするには難しいのかなと個人的には思いますので、別の機会というか、例えば委員会の中での所管事務調査の中で加えていくとか、委員長報告に付していただくのかという方法もあるかと思うんですけど、ちょっと提言として取り上げるには、皆さんの同意がどうなんだろうという部分で、ちょっとこれは取り上げられないかなというふうに感じておりますが、いかがでしょうか。

○分科会長（川合敏己君） ちょっと私もこの点につきましては、こども課のほうに確認しましたら、実際は子育て支援課のほうで、こういったかにつ子・園マップというものがございまして、そこで病児・病後児保育の御案内はされているようでございます。

この紙が置いてあるのは、こども発達支援センターくれよんと、それから子育て健康プラザ マーノのところに置いていらっしゃるということございまして、その必要に応じてその情報は提供されているということなんですが、ただ、山根委員のその発言の中で、私がこれを聞きに行ったときに、今後、保育園の園児のお母さん方に対してもこういったものを周知していきたいというようなことはおっしゃっていました。

ですので、そういった御意見をいただいたことによって、そういうふうに用意をされていかれるということございまして、議会としての提言とまでいかななくても、すぐにそういう形で対応していただけるような話もございましたので、どうでしょうかね。今回は、よろしいですか。

〔発言する者あり〕

じゃあ、今回は取り上げないと。

○分科会委員（伊藤健二君） 自由討議のような質疑のようなわけの分からない状態だったので、発言を……。

○分科会長（川合敏己君） ごめんなさい。

○分科会委員（伊藤健二君） 言いたいことを言ってよろしいですか。

○分科会長（川合敏己君） はい、どうぞ。

○分科会委員（伊藤健二君） 福祉の所管で病児保育の制度利用についてということで、この問題を取り上げた意義は大変大きいと思います。それで、重要な提起を山根委員がしてくれたというふうに私は理解をしています。

なぜなら、病児保育という制度自身がまだ十分普及もしていないし、いわゆる利用については、可児市でちょっと前にできたので、コロナ禍の前には54件の利用があった。それが令

和2年になってコロナ禍ということで、これは、この病児の保育及びそれにまつわる医療の受診だけに限らず、全体が冷え込んだわけですよ。こども医療費も御存じのように大幅に減ったということと、細かくはこの資料の中に所管事務の到達状況が説明されていますので、そちらを見ていただければと思いますが、要は病児に対する対応についても、その影響は出ている。しかし、これはなくすることができないわけですよ。特に今後の新型コロナウイルス感染症への対応と同時にやっていかなきゃいけない様々な福祉分野、教育分野との関係でいえば、こういう仕組みが可児市にもちゃんとあって、公的な支えがあるというメッセージは必要不可欠だと思っています。まだ十分、親御さんへの周知徹底が図られていないということは、担当当局も自覚に立っているようなので、一層の利便性の向上に努められたいということで、意見は入れておくということに意味があると私は思うので、ぜひこれは削らないで入れてほしいなと思います。

○分科会長（川合敏己君） これは、委員長の提言の中に、委員長報告の中に入れてほしいという話で。

○分科会委員（伊藤健二君） そうですね。入れておいて、重要な施策として、局面局面いろいろ変わるの、利用者がぐっと減るときもあるし、そうすると体制と人件費と予定した補助費の問題が出るけど、これが不用額だったということで、すっと切り落とせば済む話ではなくて、この制度は一定のコストをかけてでも維持すべき内容で、莫大な金額じゃないんで、それは維持すべきだということです。

○分科会長（川合敏己君） はい、分かりました。

じゃあ、ちょっと委員長報告のほうにそういうような形で。

○分科会委員（伊藤健二君） 入れ込み方はお願いします。

○分科会長（川合敏己君） それはちょっと委員会の中で、また全体会の中での話を私のほうからちょっとお願いを申し入れたいと思います。

よろしいですか、委員長、そんな感じで。

○予算決算委員長（伊藤 壽君） 全体会の中で取り上げるということですが、そこに書いてある文面等と、先ほど山根委員が説明されたことと微妙に違うような気がしたんですが、いかがでしょう。

○分科会長（川合敏己君） そうなんですけれども、これはあの場で即興でまとめられたところで、今、山根委員から趣旨をいただいたもんですから、それに基づいて今委員が発言を申し上げまして、ということでございますので、よろしいですかね。

○予算決算委員長（伊藤 壽君） 山根委員がさっきその内容について説明されたんですかね。それとそこに文言が書いてありますけど、微妙な違いがあると思ったんですけど、そこはどのうですかという、それはそれでいいんですかということですけど。

○分科会委員（板津博之君） ちょっと暫時休憩します。

休憩 午前10時45分

○分科会長（川合敏己君） では、会議を再開いたします。

それでは、1番目の病児保育の制度利用については、今回、分科会のほうでは提言に取り上げないということによろしいですか。

〔挙手する者なし〕

それでは、2つ目の小・中学校のICT環境の整備についてということで、これについては、前回取りまとめをいただきました文書を読み上げますと、小・中学校のICT環境においては、タブレット端末のフィルタリング整備を視野に入れるとともに、ICT支援員を増員するなど、学校・家庭においてオンラインによる授業が円滑に行えるような体制の整備に努められたいとあります。

この件についてはいかがいたしましょうか。

○分科会委員（板津博之君） これは予算決算委員会の中でも大変質疑が飛んでおりましたし、本日の委員会の事前質疑においても担当課から説明があったわけなんですけど、やはりこのGIGAスクール構想の中で、莫大な予算を使ってタブレット整備、ほかにも大型スクリーンとか、ICTに関する機器を導入して、このコロナ禍でオンラインというものの在り方もあるとは思いますが、やはりフィルタリングソフト、それからICTのやっぱり教職員の先生方のスキルの問題、ひいては子供たちの学習に遅れが出ないようなという部分において、大変重要なテーマだというふうに思いますので、当分科会で提言として取り上げるべきテーマだというふうに思いますので、これは提言として取りまとめていただきたいというふうに思います。以上です。

○分科会長（川合敏己君） ありがとうございます。

他に御意見はございますか。

○分科会委員（山根一男君） 私も同意見でありまして、やはりこれだけ大きな課題として、今日の説明でも、もちろん計画どおりには来ているかもしれませんが、いろいろの新聞なんかでいろんなところの情報を見ていると、かなり進んでいるところが入ってきていますので大丈夫かなというのは非常に、学校によってすごい多分差が出てきてしまっているんじゃないかなとか、いろんな懸念があるんですけども、そこはやはりちゃんと提言して、しっかりやってもらうようにする必要があるんじゃないかと思います。

○分科会長（川合敏己君） そうしたら、ちょっと決を採りたいんですが、この2番のいわゆる小・中学校のICT化の環境の整備について、この表題にするかどうかはちょっとまだ別ですけど、このいわゆるGIGAスクール構想の部分については、提言として取り上げていくということによろしいでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

それでは、異議なしということで、こちらは取り上げるということで進めていきます。

それでは、そのほかに取り上げたい事項があれば。

〔「なし」の声あり〕

なし。よろしいですね。

じゃあ、この1本に絞ってちょっと考えていきたいと思います。

それでは、提言として取り上げることになったものについて成文化していくために、自由討議を行いたいと思うんですが、取りあえず先ほどのフィルタリングソフトとか、そういうのはまだちょっと実は課題として上げたんだけど、まだほかのもあるというような話もあるもんですから、ちょっと委員長・副委員長のほうで、案を一つ考えてみましたので、それをちょっと上げさせていただきます。

まず、小・中学校のICT教育の推進についてということで、それでICT機器を使った学習環境のさらなる充実を図りたい。これは先ほどおっしゃられたWi-Fiルーターもそうでしたけれども、それからフィルタリングソフトにするのかどうかもこれから検討しながらということで、いずれにしても、そういうハード・ソフトの環境をまず充実を図りたいということで、また学校や家庭でのオンライン学習を円滑に行えるよう、教職員の研修体制を充実するなど、子供たちの学びに格差が生じないように努められたい。

これを行うのはやっぱり子供たちの学びにつながることで、これにさっき山根委員がおっしゃった学校間での格差が出てはまずいということで、あとはまた先生方がやはり教えるに当たって得手不得手であると思うんですね、ICTを使つての教育。そこについて、基本的には一定以上のスキルを持っていただきながら生徒に向き合ってもらいたいということで、こういった内容にしております。

ということですので、一回ちょっとここで暫時休憩を取りまして、様々な御意見いただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

〔挙手する者なし〕

じゃあ、暫時休憩といたします。

休憩 午前10時57分

再開 午前11時12分

○分科会長（川合敏己君） それでは、会議を再開いたします。

それでは、当分科会から予算決算委員会に報告する提案案がまとまりましたので、提案させていただきます。

副委員長のほうから、ちょっと朗読していただいてもよろしいですか。

○副分科会長（中野喜一君） 小・中学校のICT教育の推進について。

ICT機器を使った学習環境のさらなる充実を図りたい。また学校や家庭でのオンライン授業を円滑に行えるよう、教職員の研修体制を充実するなど、子供たちの学びに格差が生じないようにすること。

○分科会長（川合敏己君） 第3分科会から報告する提言案については、この内容で御異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

ありがとうございます。

それでは、9月15日の予算決算委員会において報告いたします。

また、提案内容の表現等の一部変更は、正・副分科会長に御一任いただきたいと思います
が、御異議ございませんでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

ありがとうございます。

それでは、これで第3分科会を終了いたします。大変お疲れさまでございました。

閉会 午前11時14分

前記のとおり会議の次第を記載し、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

令和3年9月13日

可児市予算決算委員会第3分科会長